

持続可能な観光まちづくりを通じた観光客の誘客と地域のファン作りの仕組み	取組開始時期	2011年	取組の カテゴリ	地域活性化
-------------------------------------	---------------	-------	---------------------------	-------

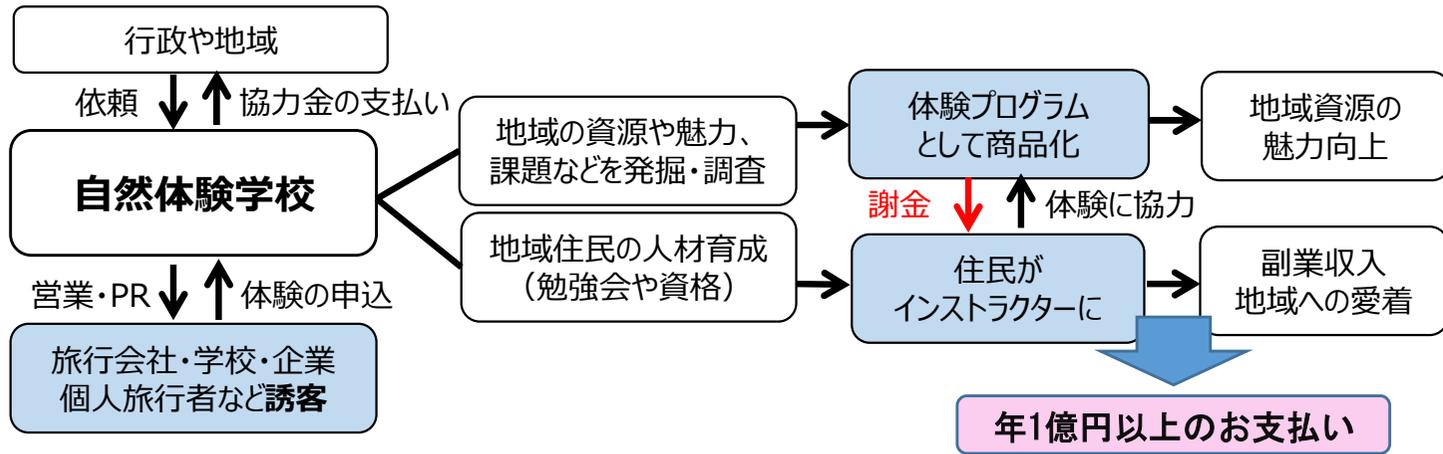
1. 団体名	NPO法人自然体験学校	2. 連携先の団体	八重瀬町具志頭, 沖縄本島南部6市町, 沖縄県
---------------	-------------	------------------	-------------------------

3. 取組目的	観光を通じた地域のファン作りによる持続的な外貨獲得と地域資源の保全・継承	4. 関連するゴール	
----------------	--------------------------------------	-------------------	---

5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

○沖縄南部における自然体験学校の取り組み

私たちは地域の資源や課題、一次産業の困りごとなどを「体験プログラム」として商品化し、観光客などに提供する『観光まちづくり』を行っています。地域のファン作りをベースに、体験観光を通じて、地域に新たな雇用や副業的な収入をもたらしています。この仕組みを通じて、私たちは**2016年から毎年4万5千人前後を地域に誘客**しています。



住民の人材育成



私たちは沖縄南部で約200人の自然体験活動指導者を養成、延べ800人以上に認定救急蘇生法の講習会実施してきました。地域全体で安心・安全な観光の仕組みづくりをしています。講習を受けた方が日常生活で命を救ったという事例もあります。

地域社会・経済への波及



私たちは主に体験プログラムの作成と営業を行っています。体験を実施する際には地域の方にお手伝いいただき、謝金をお支払いしています。また、一部のプログラムでは、集落に協力金も支払っています。積極的な年配の方も多く、観光客の受け入れが生きがいにつながっています。

取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

観光を持続可能なものにするためには、そこに住む人が関わる必要があります。当団体では、地域の魅力や課題を体験プログラムとして商品化。地域住民に対する人材育成を行い、地域と連携しながら観光客の受け入れを行っています。地域が外貨を獲得するだけでなく、年配の方の生きがいにも繋がっています。

ステークホルダーとの連携

行政や地域の協議会からの依頼を受け、観光まちづくりを行うため、地域との連携は事業を進める上で不可欠となっています。また、一部の体験プログラムでは、参加料の一部を協力金として、地域へお支払いしています。安心・安全な受け入れ態勢を確保するため、地域資源の保全・管理等も行っています。

モデル性・波及性

地元の人の日常は、誰かにとっての非日常です。地域には魅力的な資源が埋もれています。新たに作るのではなく、今ある資源を生かして体験プログラムを作るため、全国各地で単会が可能なモデルとなっています。実際に、沖縄南部以外の地域でも、このモデルを導入し、観光まちづくりのお手伝いをしています。

自由記述欄

○沖縄南部での主な体験プログラム

平和学習

沖縄戦の歴史を通じて、平和について考えるプログラムを提供しています。地域と連携しながら、当時の人々が隠れていた「ガマ」と呼ばれる鍾乳洞の保全・管理も行っています。



教育旅行民泊

私たちは沖縄南部6市町の首長らによって設立された「沖縄南部広域宿泊体験協議会」の事務局を運営しています。地域と連携し、安心・安全な教育旅行民泊を行っています。



自然・文化体験

沖縄南部には手つかずの自然や、沖縄独特の文化や風習が色濃く残る地域でもあります。そうした地域の資源を生かした体験プログラムを通じて、地域のファン作りを行っています。



○コロナ渦における当団体の取り組み

持続可能性を考える上で、コロナウイルスによる影響下でどのような取り組みが出来るのかを考えることは重要です。

アフターコロナを見据えた体験プログラム作成



沖縄県のグリーン・ツーリズムの調査や体験プログラムを作成を行っています。沖縄の新たな観光コンテンツとして、グリーン・ツーリズムの普及を進めます。沖縄戦跡国定公園におけるアドベンチャーツーリズムとワーケーションの仕組みづくりも同時に行っています。

コロナ対策を踏まえた講習会・勉強会



沖縄県独自の緊急事態宣言解除後、平和ガイド養成講座や、コロナ対策を踏まえた救急蘇生法の講習会を実施しました。時勢に応じた勉強会を実施し、変化に柔軟な地域づくりを行っています。

マイクロツーリズム×学びの実践



子どもゆめ基金助成活動の事業を通じて、沖縄県の子どもの向けに自然体験学習のイベントを企画。200組以上がキャンセル待ちとなる反響が得られました。親子でお金を払って地域のことを学ぶことは、未来のファン作りに繋がります。

○2030年を見据えて…

沖縄県で人口が増加しているのは一部の地域のみ。沖縄本島中南部以外は、人口減少・高齢化が著しくなっています。商圈が狭い沖縄県において、人口減少は深刻な課題である一方、観光が果たす役割は大きいです。私たちはこうした状況に危機感を持ち、今後は、沖縄県全体の持続的な観光まちづくりの体制づくりを進めていきます。

おきなわSDGsパートナーとの連携

私たちは沖縄県内でSDGsを行う「おきなわSDGsパートナー」に登録されています。登録を受けている団体と連携し、地域課題の解決に取り組めます。



点在する地域情報の一元化

沖縄県には魅力的な地域資源がある一方で、情報を集約する窓口がありません。沖縄県全域との連携を図り、観光客を受け入れる基盤づくりを進めます。



人材育成の拡大

沖縄県内での人材育成を積極的に行い、対外的に安心・安全な観光をPRすると同時に、内向けには「住民参加の観光」を啓発していきます。



サステナブルツーリズムの推進

地域の課題を、住民主体の体験プログラムを通じて解決するような観光の普及を目指します。交流人口だけでなく、関係人口創出も重要であると考えます。

